

## 平成26年度 基礎医学ユニット研究活動状況

### A. 構成メンバー

大島 稔、大西 基代、檜葉 均、東家 一雄、  
戸田 静男、深澤 洋滋 (五十音順)

### B. 研究活動の概要

基礎医学ユニットは、もともと解剖学、生理学、東洋医学基礎をそれぞれ専門とする領域で活動していたメンバーにより構成されている。それ故、個々のメンバーは独立した研究テーマを有しており、ユニット全体としての研究テーマを持っていない。よって、以下に各教員の「研究テーマ」を記しておく。

大島 稔：視床 - 皮質投射系の研究

大西基代：高速液体クロマトグラフィーを用いた生理活性物質の分析

檜葉 均：脊髄後角における局所神経回路の形態学および電気生理学的解析

東家一雄：リンパ系組織を対象とする機能形態学的研究

戸田静男：(1) 活性酸素障害および抗酸化作用物質の研究  
(2) 東洋医学について古医書からの研究  
(3) 生薬成分の研究

深澤洋滋：慢性炎症の中でも神経因性疼痛に焦点当て、実験動物モデルを用いてその発症機序の解析を行っている。マウスの坐骨神経結紮モデルにおいて、結紮部位での血管内皮増殖因子の増加が確認されたことから、神経因性疼痛の発現機序に血管内皮増殖因子がどのような関わりを有するかについて詳細な検討を進めている。

### C. 研究業績

#### 1. 著書、総説

松原勝美、和泉克典、大島 稔、澤田 規 (編者)：柔道整復師国家試験 過去問題+要点テキスト (1-497頁)、2015年度版 久美出版 2014年

松原勝美、松熊秀明、上藤美和、川畑浩久、松下美穂 (編者)、大島 稔ら (執筆)：はり師きゅう師国家試験 過去問題+要点テキスト (1-371頁)、2015年度版 久美出版 2014年

#### 2. 原著

Rantakari P, Auvinen K, Jäppinen N, Kapraali M, Valtonen J, Karikoski M, Gerke H, Iftakhar-E-Khuda I, Keuschnigg J, Umemoto E, Tohya K, Miyasaka M, Elima K, Jalkanen S, Salmi M : The endothelial protein PLVAP in lymphatics controls the entry of lymphocytes and antigens into lymph nodes. *Nature Immunology*. 2015 Feb 9. doi: 10.1038/ni.3101.

Kiguchi N, Kobayashi Y, Kadowaki Y, Fukazawa Y, Saika F, Kishioka S. : Vascular endothelial growth factor signaling in injured nerves underlies peripheral sensitization in neuropathic pain. *J Neurochem*. 2014 Apr; 129 (1) : 169-78. doi: 10.1111/jnc.12614. Epub 2013 Dec 4.

#### 3. 学会発表

國松佳子、戸田静男：消渴について 古医書からの一考察. 平成26年度全日本鍼灸学会第34回近畿支部学術集会、2014, 11, 大阪.

檜葉 均、清行康邦：下行性疼痛抑制系ニューロンの脊髄後角深層への興奮性入力-パッチクランプ法による解析-、第63回全日本鍼灸学会、2014.5. 松山

#### 4. 報告、その他

若山育郎、石崎直人、斉藤宗則、鶴 浩幸、深澤洋滋：2016 WFAS国際シンポジウムの東京招致が決定、全日本鍼灸学会誌、2014, 64 (1) : 65-75

深澤洋滋：2014年度WFAS学術大会開催 (アメリカ・ヒューストン)、医道の日本、2015, 74 (1) : 167

若山育郎、石崎直人、斉藤宗則、鶴 浩幸、深澤洋滋、増山祥子、山田昌紀、西村理恵：2014WFAS鍼灸国際シンポジウム (米国・ヒューストン) 参加報告、全日本鍼灸学会誌、2015, 65 (1) : 36-46

#### 5. 科研費

檜葉 均 (研究代表者)：脳幹からの下行性抑制ニューロンは脊髄後角の深層ニューロンを興奮させる 文部省科学研究費補助金 (基盤研究C、平成26年~28年度、課題番号26462386)